



第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「平和初めて知った」 「主イエス様の恵み」	〃	
聖書朗読	使徒言行録9:1-25	司会	
祈禱	(新約聖書 p 229)		
賛美	新生300	会衆	
説教	「迫害者から伝道者へ」	牧師	
祈禱			
賛美	新生363	会衆	
献金			
報告		司会	
頌栄	新生672b	会衆	
祝禱		牧師	



ファミリー礼拝

説教：渡真利彦文牧師

司会：渡真利千佳子姉

聖書：出エジプト記1:1~14

メッセージ：「エジプトのイスラエル人」

<巻頭言>

「ワン・センテンス」

牧師 渡真利彦文

創世記5章には、「〇〇は〇〇歳になった時、〇〇をもうけた。〇〇は何年生き、そして死んだ」という表現が繰り返されていきます。まさに「塵にすぎないお前は塵に帰る」(創世記3:19)のです。今の私たちとは比べられないほどの寿命の長さ、また子孫の数がある半面、この長い寿命、子宝の豊かさを一瞬のうちに吹き飛ばし、吹き消してしまうほどの死の現実、死の威力に圧倒されます。死の力のもとにあって価値ある生とは何かをこの記録は突きつけます。そうした中、「エノクは神と共に歩み」(24節)とあります。あなたは神の前に価値ある生き方を選び取っていますか。

欧米では、その人の人生を総括するような一文を墓標に刻む習慣があります。創世記5章にある人々の記録をそれぞれの墓標にたとえるならば、その中でひときわ引きつけられるのがエノクの墓標です。「エノクは神と共に歩み、神がとられたのでいなくなった」。エノクの人生は誰の目から見ても神と共に歩む人生でした。あなたの今までの歩みを振り返り、それをまとめるとすればどのような一文になるでしょうか。しばらく時間を取って考えてみましょう。次にあなたが刻みたいと思う一文を思い浮かべ、そうした生き方を始めてみてはいかがでしょうか。